

## 閉会集会

### 参加者発表



福岡教育大学  
西崎 緑

皆さま、どうもお疲れ様でした。「人権・平和・民主主義の破壊に立ち向かう」という  
教研集会でしたが、改めて市民社会の担い手を育てる国立大学の大切さを認識いた  
しました。また、皆さまとの交流の中で、学長選をめぐりいろいろとご苦勞されている様  
子をうかがい、本当に政・官・財が総掛かりで全国の大学を破壊していることを知りまし  
た。結論的には、国大法の欠陥ということでしょうか、それについても組合員が闘って  
いかななくては行けないと、改めて認識した次第です。

それから、私たち福教大も裁判をしています。闘う組合一辺倒になってしまうと、交  
流の大切さが抜けてしまいます。組合は交流の場であり、その交流によって、職場の  
仕事が円滑に進んできたという話がありましたので、闘うだけでなく、組合員同士が交  
流を深めていくことの大切さも改めて認識いたしました。

全国で10の組合が裁判に突入していますが、私たちの組合では9月10日に裁判  
の証人尋問が終わったところです。そこで相手方の弁護士から、「全大教が指令をし  
ているのか」というような質問がありました。みなさんご存じのように、この組織は単組の  
それぞれの活動の集まりであり、こういう形で教研集会に出ささせていただくと、それぞ  
れの単組が頑張っていることもわかり、皆さんとの連帯と交流が深められたと感じています。

大学が抱えている問題は、その大学だけの問題もありますが、共通するところもありま  
す。私もこういう研究集会に参加させていただいたことにより、いろいろな闘い方、戦術  
も勉強させていただきましたし、どういう要求項目を挙げていくのかということも、かなり勉  
強させていただきました。今後とも教研集会を通して全国の組合の皆さんで交流を深  
めていき、組合のあり方を考え、実践をしていくことが大事なのだと思います。どうもあり  
がとうございました。(拍手)

## 閉会集会

### 参加者発表

名古屋大学  
長野 祐子



大学で働くとはどういうことか、つい日ごろの仕事に押し流されて忘れていますが、改めて考えさせていただくことができたので、その結果を持ち帰り、組合員にもぜひ、こういう考えもあるということを伝えて、考えてもらいたいと思いました。

A分科会は、男女共同参画に参加させて頂きました。どうしても、この性別だからというふうとカテゴライズしがちですが、そうではなく、いろいろな方が働く中で様々な壁を感じているので、そういう壁をどのように取り払っていかるところに組合が関わられるのか、今後も引き続き考えていかなければいけないと思いました。B分科会は、非常勤職員の分科会に参加してきました。各大学の規模や状況により、多くの成果が勝ち取れていたり、まだまだ成果が勝ち取れていないところもありますが、これからも全国のみんなで情報交換しながら、いいところは真似をして、ちょっと失敗したなというところはそこから学び、取り組みに生かしていけたらいいと思います。私は今回C分科会にエントリーさせて頂き、青年層の組合員拡大と組合員の成長をテーマに、分科会のコーディネーターをさせて頂きました。組合員を増やすというところでもなかなか特効薬がなく、増えてきた組合員をどのように定着させ、育てるかというところでも特効薬がない中で、皆さんがたいへん困られている状況がよくわかりました。各組合が持っている多様な面を出し合いながら、いろいろな方と、最終的には人と人とのつながりが大事だというのが分科会の中でもよくわかりましたので、組合に帰ってまた頑張っていきたいと思います。

長野県で11月22日と23日に全大教の青年部の青年交流集会と総会、12月13日に非常勤の交流集会も神戸で予定されているということでした。私の周りにもまだ組合に入っていない人がたくさんいるので、ぜひ組合に入ろうと声をかけ、組織拡大を進め、新しい仲間と一緒に参加したいと思いました。以上で終わります。(拍手)

## 閉会集会

### 教研集会まとめ

全国大学教職員組合 中央執行副委員長、教文部長  
竹内 智



みなさん、こんにちは。今回は登壇することが多く、基調報告をはじめ、AやB、C分科会でも報告をしなければいけないということで忙しかったのですが、やっと最後の登壇となりました。今回も、教研集会に参加された代表の方2人がまとめのお話をされましたが、私よりも、そちらの2人の方のほうがきちんとまとめておられたのではないかといいと思います。

ここ3日間、天候に恵まれて良かったと思います。秋雨前線が猛威を振るい、一時はどうなることかと思いましたが、実は猛威を振っているのは秋雨前線だけではなく、安倍政権、アベノミクスも猛威を振っています。さらに、今回皆さんからいろいろご報告いただいたように、学長の暴走も始まっていることが明らかになってきました。大学のガバナンス、いわゆる管理運営に関しても、法律や今までの慣例を無視するような形で、学長のワンマンぶり、悪しきリーダーシップを発揮するところが出てきていることが注目されることです。福教大における学長による強権的な大学運営の常態化や山口大における学長による学部長の指名など、そのような大学の自治を否定するような状況が今後とも多くなっていくのではないかと考えているところです。また、残念ながら学教法は通ってしまいましたが、教授会の役割を縮減するようなことも起こるだろうと思われまます。

今回、広渡先生から、学問の自由や大学の自治を守るだけの教授会ではなく、教授会として何を自己規律的に考えて大学改革を目指していくのかを打ち出していないと、学問の自由、大学の自治はだんだん守れなくなっていくのではないかといい話があったと思います。そういう中で、例えば学生教

育の問題がかなり大きくなっているだろうと思っています。大学の一つの使命として、今回教研集会のテーマに挙げた人権・平和・民主主義について人類の叡智を大学の中で学生たちに教え、立派な社会人として送り出す役割を担っているにもかかわらず、大学のトップ、経営陣ではモラルハザード的な運営が行われつつある。国民がその実態を知ると、何のための大学だろうかと思うのではないかと考えたところです。今回、大学の社会的責任という言葉が、私の心には重くのしかかっているところです。交流集会の中でもお話ししましたが、社会的責任をどう考えていくのか。これを一人ひとりが考えていく中で、大学の教育研究に生かしていくことが必要だろうと思います。

それから、感想を述べられた代表のお話の中に、闘う組合も必要であるが交流を深めていく組合づくりを目指したいという話がありました。一般企業の組合とは違う組合運動の仕方を大学の教職員組合は持っているだろうと思っています。教育研究機関における組合のあり方を一人ひとりが考えていく中で、運動の方向性を再構築していくことが、いま求められているのではないかと考えたところです。

この3日間の報告および討論の成果を各単組に持ち帰って報告していただくとともに、今後の組合の要求活動につなげていただくことを、期待しております。

最後になりますが、電気通信大学の教職員組合の皆さんに、この教研集会の実施に際し、多大なご助力をいただきました。お礼を申し上げるとともに感謝いたしたいと思います。(拍手)

今回お一人で参加された方は、ぜひ来年はお二人で参加していただきたいと思います。そうすると、今回の倍の大きさになります。教研集会は、みんなが集まってみんなで討論して大学の今後を考える、あるいは職場環境の改善を考えていくことにつなげていくことに意味があります。教研集会に参加して意見を述べ、相手の意見を聞くことが重要ではないかと考えているところです。皆さん、3日間、本当にお疲れさまでした。山梨出身の立場からすると、「ごきげんよう、さようなら」という形で締めくくりたいと思います。どうもありがとうございました。(拍手)